

飲酒運転の危険性訴え 八学大生に八戸署員ら

飲酒運転の危険性などを学んだ飲酒運転講話



八戸学院大(法官新一学長)は26日、同大で八戸警察署と八戸モータースクールから講師を招き、「飲酒運転講話」を開催した。3年生約70人が、飲酒運転の危険性や、飲酒時のマナーについて理解を深めた。

社会人になるための教養を身に付ける「キャリアデザイン」の授業の一環として、本年度から実施。講師として招かれた同署交通一課の須藤浩幸安全教育係長が、「飲酒運転は摘発されれば、一発で免許取り消しになる」などと、罪の重さを説明した。同校の飲酒運転防止上級インストラクター千葉真紀子さんは、一気飲みを強要する「アルコールハラスメント」は強要罪や傷害罪などに問われる可能性がある―と解説。「命や将来が失われる危険性もあると理解した上で、お酒をたしなんでほしい」と訴えた。

飲酒運転講話は来年以降も継続して行う予定。(佐藤雄)